（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス三木			
○保護者評価実施期間	2024年　12月　16日	～	2025年　1月　15日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	30	（回答者数）	17
○従業者評価実施期間	2024年　12月　16日	～	2024年　12月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　2月　3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童の思いやニーズを第一に支援プログラムの立案、提供を行う体制が根付いている。	自己選択の機会を多くとっている。提供プログラムへの参加の可否だけではなく、参加の方法や、プログラムの立案も児童の希望にそって行っている。	利用児童のニーズと、保護者や関係機関のニーズのバランスを考えた上で、更なる支援の質の向上につとめたい。現在、個別療育においての専門的支援実施体制の導入を検討している。
2	運動室と療育室がわかれており、児童の調子に合わせた柔軟な対応が可能である。	支援計画の基本的方針を中心としながらも、その日の児童の体調及び精神状態を把握し、どの程度プログラムへの参加意欲があるかを尋ねるようにしている。	利用児童がいつでも適切に自己の状態を判断できているわけではないため、なるべく活動に参加できるよう支援を続けている。より一層、ベストな選択ができるよう、職員間の連携を強化するよう取り組んでいる。
3	写真付きの連絡帳や口頭での引継ぎなどが継続して行われていること。	文書による支援内容だけではなく、写真付き連絡帳を導入することにより、支援や活動の見える化をはかっている。また、連絡帳に頼らない引継ぎやコミュニケーションを心掛けている。	連絡帳の作成に時間がかかってしまうデメリットがあり、効率化をはかっている。また、高学年になると体を動かさないコミュニケーション支援も増えるため、支援の説明を丁寧に行っていくよう心掛ける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎への対応の幅が狭い。	人員不足により、新規送迎先の増加がとても難しい。	昨年より引き続き、増員できるよう努めている。進学が新規利用による送迎状況の変更にも対応できるよう、相談や利用につとめている。
2	地域交流の回数が少なく、参加や実施状況が十分に周知されていない。	HPや会報による周知不足である。	他事業所主催の地域交流会等への参加を行っているが、特定曜日に偏りがある。そのため、回数の増加や曜日の分散、自事業所での開催も検討している。
3	SNSやHPによる情報発信	人手不足のため情報発信に労力が割けておらず、活動や取り組みの全体発信、外部との共有が著しく少ない	SNSの運用方法や、外部発信について、リソースをまわしていけるよう検討していく必要があり、春からの体制見直しを検討している。